

新・堀川分館オープン！

平成21年5月19日（火）、待望の新・堀川分館がオープンしました。

旧・堀川分館から、300mほど東に移動し、堀川公民館・堀川地区センターと同じ建物内の1階に移転しました。窓が多く明るい室内で、木を多く使った温かい雰囲気になっており、ベビーカーや車いすなどもそのまま入れるバリアフリーのつくりになっています。



旧・堀川分館は地区センター跡を改造し平成3年より使用していました。図書館のフロアが2階だったことや、駐車場がなかったため、利用する際に不自由な点もありました。

現在の新館は20台分の駐車場と駐輪場があり、非常に便利になりました。電車通りからも近いので、誰でも立ち寄りやすいと思います。

来館者の多くの方からも「明るくなってよかったね」「1階で入りやすい」という声をいただいています。

蔵書数は約12,000冊で、気軽に読めるものや生活に役立つ本が数多くあります。たくさんの方のご来館をお待ちしています。

(堀川分館 山崎)

〈周辺地図〉



富山市子ども読書活動推進計画(第二次)について

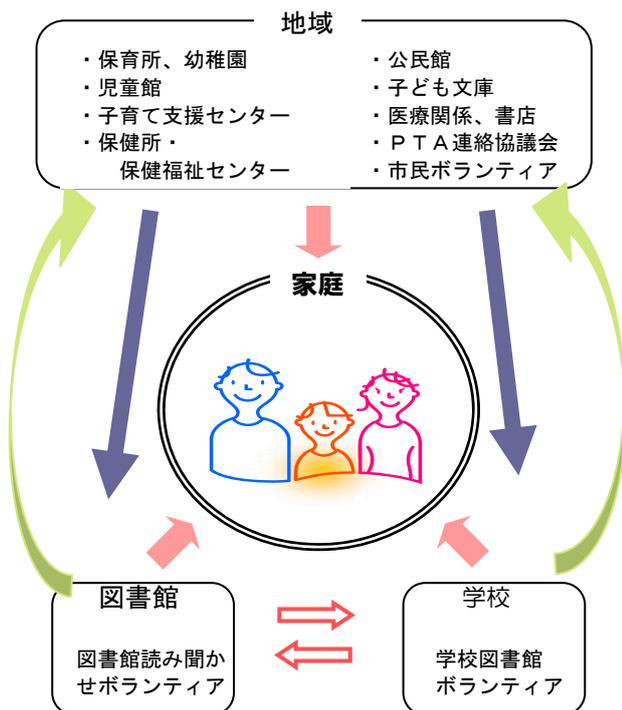
富山市子ども読書活動推進計画(第二次)策定会議が開かれました。

平成13年「子どもの読書活動の推進に関する法律」が成立し、第9条の規定により平成16年「富山市子ども読書活動推進計画」¹を策定しました。

この計画では5年後に見直しをすることを定めているため、国や県の二次計画²を受けて富山市でも二次計画策定のため、5月26日に第1回の会議を開催しました。当日は、学識経験者2名、富山市PTA連絡協議会委員1名、ボランティア代表1名、公募委員2名と関係各課職員2名と事務局担当者が集まり、各委員から提言をいただきました。計画は2回の策定会議を経て、10月上旬に公表の予定です。

¹図書館のホームページで見ることができます。
²富山県および、文部科学省の子ども読書活動推進のホームページで見ることができます。

関連機関ネットワーク図



富山市第一次計画の成果

図書館

- ・全市に「富山市子ども読書活動推進計画」の推進が浸透
- ・家庭・地域との連携強化
- ・児童図書館の貸出冊数増加
- ・ボランティア活動人員の増加

学校

- ・全校一斉読書活動実施校の増加
- ・学校における条件整備
- ・学校図書館の蔵書のデータベース化の達成
- ・学校図書館司書の配置

富山市第一次計画の課題

図書館

- ・児童サービスを専門とする図書館司書の減少
- ・児童図書館蔵書冊数の減少

学校

- ・学校図書館図書標準が100%に未達成
- ・学校図書館司書の1週当たり配置日数の見直しが必要

今後の日程

7月末まで

- ・パブリックコメントの募集

8月上旬

- ・第2回富山市子ども読書活動推進計画(第二次)策定会議の開催

9月

- ・議会や関係各課へ報告

10月

- ・「富山市子ども読書活動推進計画(第二次)」公表

いちおしライブラリー「茶の世界」



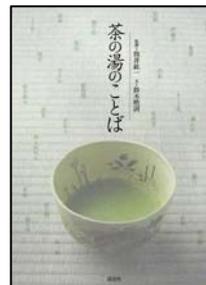
第 140 回直木賞受賞作『利休にたずねよ』（山本兼一／著）は、図書館でもたくさんのご利用をいただいています。おのれの美学だけで天下人・秀吉と対峙した千利休。茶聖ではなく、人間利休に惹かれた著者がその謎に包まれた生涯を解き明かすという魅力的な作品です。今回は、利休や多くの戦国武将を魅了した茶の世界を身近に感じとれる本を 3 冊紹介します。

総合芸術といわれる茶の湯の道は、作法に限らず季節、料理、花に書に禅と日本文化のすべてが奥深く存在しています。「習わずに良し悪し言うはおろかなりけり」という利休の言葉に一年発起した、女優でもある著者の「茶の湯元年」から初茶会を開くまでの痛快エッセイです。婦人画報に連載されていたものに加筆して美しい装丁で出版されたこの本には、壇さんの着物姿や道具類の写真が豊富に掲載されていて眺めているだけでも十分楽しめます。本来なら茶の湯を始めて、かなり経験を積まないとできないような、茶杓作りや仕覆作りを習ったり、茶菓子を作ったりといった事も興味深く、軽妙な文章で読者を茶の湯の世界に引き込む魅力を持った本です。



『千利休』侘びの創造者
別冊太陽
(平凡社編刊 2008)

侘びの創造者の副題のとおり、日本人の美意識の根幹を創り上げた千利休を、豊富な図版や写真を使い興味深く伝えてくれる一冊です。戦国から天下びとの世へ変転する時代にあって、天下一の茶頭となった利休がいかに生き、何を目指し、茶の湯という総合芸術を創り上げたか、その軌跡と思想を知ることができます。また利休をめぐる織田信長や古田織部など 18 人の人々をコラムという形でとりあげ、そこから利休や茶の湯との関わりが分かるようになっていきます。



『茶の湯のことば』
鈴木皓嗣文
(淡交社 2007)

この本は茶の湯の世界で使用されることばを「もてなし」「しつらい」「よそおい」「ふるまい」「うつろい」の 5 章に分け、紹介したものです。茶道の長い歴史の中で大切に伝えられてきたことばの中には「一期一会」「結界」「綺麗さび」「名残り」など一般的に使われることばも多く、それらを簡潔な解説と多彩なイメージ写真とで表しています。そのことばの中には、独特の美しい響きを持つものが多く、日本人としての和のもてなしのこころを知るためにも参考になります。和風のイメージ資料としても利用できる本です。



『壇ふみの茶の湯はじめ』
壇ふみ著
(アシェット婦人画報社 2008)

(婦中図書館 黒田)

図書館資料いろいろ〈古地図編〉

図書館では図書他に様々な形態の資料を所蔵しており、そのひとつに地図があります。今回は、富山市立図書館が所蔵する明治期の地籍図を紹介します。

地籍図とは、土地台帳・土地登記簿に付属している地図のことで、地区ごとの土地の区画を示す境界とその番号（地番）地目などが記されています。

地籍図の歴史は、明治政府が制定した地租改正により始まります。課税対象とする土地とその所有者を正確に把握し、土地の価格を一定の基準で査定するために土地台帳が作られ、付属図として地引絵図が作成されました。当館が所蔵する旧富山市街地の地籍図は、この地引絵図にあたるもので、明治初期から中期に作成されました。

地図は全部で128枚あり、大きさはそれぞれ異なり、小さいもので縦横40cm程度、大きいものでは縦横が3メートルを超える地図もあります。作成された年代は、明治9年と表記されたものが最も多く、明治19年や21年作成が数枚あります。また作成年の記されていないものも含まれます。明治の富山市の町並みや道路、河川、橋などが色分けして記され、当時の様子を知ろうてたいへん貴重な資料といえます。

現在、これらの地図の電子化保存を進めており、複製印刷したものと電子化したものを公開しています。詳しくは、富山市立図書館のホームページから、電子ライブラリーの「古地図」のページをご覧ください。

(本館 田中)

レファレンスあれこれ

今回は災害に関する質問をご紹介します

Q. 災害時に明かりの代用をできるものにはどのようなものがあるか。

A. 参考図書室所蔵の「地震災害の事典」に参考となる記述はありませんでした。

「体験版わが家の防災」（駒草出版 2005）には、見たこともないような防災グッズの紹介や使用感が書かれていて参考になります。非常用として事前に準備しておく際におすすめの明かりの紹介があるだけでした。

「新冒険手帳」（主婦と生活社 2006）には空き缶とサラダ油を使用したランタンの作り方の他、サバイバルに役立つ情報がたくさん書かれています。この本では、ほんのちょっとした知識が万が一の際に役立つことを実感させられます。

Q. 震災が起きたときに富山県に液状化現象の危険があるか知りたい。

A. 液状化現象とは、地震など強い振動を受けた砂質の地盤が液体のようになる現象のことで、建物が傾いたり、横倒しになってしまうこともあるそうです。

富山市では「富山市地域防災計画」のパンフレットを作成しており、そこには震災時の県全域液状化予想分布図が掲載されています。これは富山市のホームページからも見る事ができます。

(本館 新保)

